



新年度「活動基本方針」連携・協働さらに活性化へ

コロナ禍明け初の県支部年次総会

日本防災士会千葉県支部(濱本武將支部長)は5月18日、千葉市中央区の市文化センターで2024年度年次総会を開催し、2023年度の事業、決算両報告と新年度事業計画、予算両案、体制強化のための県支部規約改正、役員等選任の計6議案を原案どおり承認しました。

女性リーダー育成、研修充実、執行部強化

総会の参加者は、議決権を有する正会員137人のうち84人(61.3%)。参加方法の内訳は、会場出席21人、郵送はがきによる表決30人、メール回答22人、会場中継(ズーム表決)11人でした。

総会の参加者は、議決権を有する正会員137人のうち84人(61.3%)。参加方法の内訳は、会場出席21人、郵送はがきによる表決30人、メール回答22人、会場中継(ズーム表決)11人でした。



1. 地区防災計画の推進 実態調査や好事例の研究

挙手表決する総会出席者(5月18日、千葉市文化センター)

- 1. 地区防災計画の推進
実態調査や好事例の研究
- 2. ダイバーシティの取り組み推進
日本防災士会ダイバーシティ委員会の内容に沿う活動をし、地域の女性防災リーダー育成、障がい児・障がい者、LGBTQ(セクシュアルマイノリティ)など多様な被災者を想定した災害支援。
- 3. 感染症対策
防災士の活動時感染対策。
- 4. コミュニティ形成と人材育成
各地域の防災士によるグループ形成(既存グループも可能)。
- 5. ネットワーク構築、諸団体との連携
県内の防災活動団体、自治体との関係を構築する。県支部の協力団体、提携団体の登録制度を整備し、支援、協働、活動状況を広報する。
- 6. 受託事業
県内各活動グループなどとの連携、協力(相互応援)による講師派遣、研修受託。地元会員へ積極的呼びかけ。
- 7. 執行部の強化
役員を7人増やし、計15人体制のもと、担当分野

手法を検討し、モデル地域の選定と協力の具体化。

2. ダイバーシティの取り組み推進
日本防災士会ダイバーシティ委員会の内容に沿う活動をし、地域の女性防災リーダー育成、障がい児・障がい者、LGBTQ(セクシュアルマイノリティ)など多様な被災者を想定した災害支援。

3. 感染症対策
防災士の活動時感染対策。

4. コミュニティ形成と人材育成
各地域の防災士によるグループ形成(既存グループも可能)。

5. ネットワーク構築、諸団体との連携
県内の防災活動団体、自治体との関係を構築する。県支部の協力団体、提携団体の登録制度を整備し、支援、協働、活動状況を広報する。

6. 受託事業
県内各活動グループなどとの連携、協力(相互応援)による講師派遣、研修受託。地元会員へ積極的呼びかけ。

7. 執行部の強化
役員を7人増やし、計15人体制のもと、担当分野

第3号議案 2024年度活動基本方針
県下の防災士が一丸となり、県内全域を対象に、県民への防災・減災の普及活動に努める。
自治体との連携、他の防災・災害ボランティア団体と共存協働し、防災力向上を目的とし、多様で柔軟な活動を行い、県内の防災啓発活動の活性化に努める。

【主な質疑】

「2023年度事業報告」
▽要望 会員向けスキルアップ研修をもう少し実施してほしい。
「2023年度決算、財産等報告」
▽質疑 会員数と実際の会費収入が違う。回答 会費納入の時期がずれ、会計上、未納になっている。会員がいる。▽質疑 八街市での活動謝金が支出科目だけにあるが、収入にも計上されるのでは。回答 支出時期がずれ、2023年度には計上されていない。
「2024年度事業計画」
▽質疑 質疑とくになし。
「2024年度予算計画」
▽質疑 会員見込み数が少ないのでは。回答 防災士資格を取得した際、日本防災士会(東京)に入会すれば本部に登録されるが、県支部に同時に入会・登録してもらえない。資格取得者へのお知らせを充実させていく。▽質疑 備品購入費など、会員の研修に必要なものはもう少し計上しても良いのでは。回答 スキルアップ研修などを充実していくため、検討する。
「県支部規約改正」
▽質疑 「役員等選任」
質疑とくになし。
これらの審議の結果、すべての議案は賛成多数により可決し、午前10時30分に閉会しました。
2021年1月に深刻化した日本のコロナ禍は2023年5月、インフルエンザの扱いと同等の感染症になりました。様々な社会活動の制限が年々ペースで初めて解かれ、2024年度は新たな事業計画、制約のない活動基本方針で取り組み最初の1年間です。

風の人、水の人、土の人

総会記念講演 室崎益輝・日本防災士会理事長

総会後、特定非営利活動法人日本防災士会の室崎益輝理事長(79) (写真)による記念講演が行われました。テーマは「災害の時代におけるコミュニティ防災」です。

災害の時代と減災の社会
まず社会の「減災」の進め方について、室崎理事長は「被害の引き算を対策の足し算で実現する」という考え方を示しました。

足算には、▽空間(小さな公共)、▽時間(応急に
加え、予防と回復調)、▽人間(公助、自助
だけでなく、共
助と互助も)、
▽手段(ハード
ウェアにソフト
ウェア、ヒュー
マンウェア)の
4要素があり、
「いずれの足算
もコミュニティ
の役割が大きい」と指摘し
ます。



普教授(防災工学)で、これまで日本火災学会会長、日本災害復興学会会長、地区防災計画学会会長などを歴任されました。

約1時間の講演は、能登半島地震をはじめ最新の知見を交えながら、1. 災害の時代と減災の社会、2. 互助とコミュニティ防災、3. 地区防災計画、4. 防災士会と防災士の4項目に分けて進みました。

マンネリ化、▽自主防災組織の不明確さと例示
その上で、「新しいコミュニティ防災の進化が求まられている」とし、▽ポンド型からブリッジ型へ、▽地域密着のボトムアップ型へ、▽減災のサイクル型へ、3つの発想を紹介し、コミュニティ防災の立ち位置として「コミュニティは公助の下請けではない。コミュニティがやるべきこと、コミュニティしかできないことがある」と強調しました。

地区防災計画
地区防災計画が制度化されて今年で10年たちました。室崎理事長は「その取り組みは全国に広がっており、優れた事例から学ぶ必要がある」とアピール。

互助とコミュニティ防災
互助とコミュニティ防災の関係性については、「自然の凶暴化と社会の脆弱化(せいじやくか)の中で、従来のコミュニティ防災では対抗できなくなっている」という認識を示されました。

防災士会と防災士の役割
講演の最終項目は「防災士会と防災士の役割」です。室崎理事長は「多種多様な担い手が連携し、固有の課題に創造的に応えるためには、土の人、水の人、風の人、陽(ひ)の人がいる」と言います。

土の人は住民、水の中の人はその内にある専門家。風の中の人はその外からの専門家、陽の人は行政です。

「水の人」の具体的なイメージは、防災士や消防団員、民生委員、コミュニティナース、社会福祉士など。

土の人が根を張り、居続けて「自助・共助の芽」が出たら、水の人が寄り添い、さらに成長を促す水をやり続けます。風の人
は新しい種を運びます。

な担い手が連携し、固有の課題に創造的に応えるためには、土の人、水の人、風の人、陽(ひ)の人がいる」と言います。

土の人は住民、水の中の人はその内にある専門家。風の中の人はその外からの専門家、陽の人は行政です。

「水の人」の具体的なイメージは、防災士や消防団員、民生委員、コミュニティナース、社会福祉士など。

土の人が根を張り、居続けて「自助・共助の芽」が出たら、水の人が寄り添い、さらに成長を促す水をやり続けます。風の人
は新しい種を運びます。

こうした現状認識の中で、防災士会には「一人ひとりの力を引き出し、みんなが繋がって対応する。その能力向上、連携協働を進める推進力となる役割が求められている」と指摘しています。

第一には、国や自治体、学会、公共防災機関とのつなぎ役。

第二は、個々の防災士の能力を高める役割。具体的

には、▽防災教材や防災装備の開発、▽スキルアップ研修や訓練の場の提供、▽能力別、技能別グループ研鑽(けんさん)。

第三は、行政や地域の中で役割を生み出すこと。学校アドバイザーや地区防災計画サポーターにつながる役割などが考えられます。

室崎理事長は「防災士に期待される背景は、専門性と組織性にある」といい、防災士会には個々の防災士やグループの能力向上と連携協働を具体化する組織力が求められていると指摘し

ています。

日本防災士会千葉県支部は、ほぼ隔週ペースで金曜日午後7時から約2時間、役員会を開き、前回からの動き、今後の取り組みなどを話し合っています。

会場は、千葉市中央区の千葉市民活動支援センター(通称「ちばさぽ」)会議室。濱本武将支部長をはじめ役員数人が集まり、自宅などからズームで参加する役員もいます。

県支部ホームページ「記事一覧」には、支部、会員それぞれ「活動報告」欄があり、随時更新されていますが、内容は結果が主です。

会報「つながり」創刊
日本防災士会千葉県支部は、ほぼ隔週ペースで金曜日午後7時から約2時間、役員会を開き、前回からの動き、今後の取り組みなどを話し合っています。

会場は、千葉市中央区の千葉市民活動支援センター(通称「ちばさぽ」)会議室。濱本武将支部長をはじめ役員数人が集まり、自宅などからズームで参加する役員もいます。

県支部ホームページ「記事一覧」には、支部、会員それぞれ「活動報告」欄があり、随時更新されていますが、内容は結果が主です。

会報は、県支部の「今、何が」や会員の皆さんのお役に立てそうな情報をニュースとして定期的にお届けするため、創刊しました。

発行は原則毎月1日。経費節減のため、ネット一斉配信です。

防災士の活動は、どのようなシーンであれ、人々との関係性の上に成り立っているため、題字は「つながり」です。ご意見やご提案をお寄せください。

それぞれ「活動報告」欄があり、随時更新されていますが、内容は結果が主です。

第4号議案 2024年度事業予算

2024年4月1日から2025年3月31日まで。前年度対比など詳しくは県支部ホームページ「記事一覧」をご覧ください。

I 前期繰越金	778,045円
前期繰越金	778,045円
II 経常収益	779,205円
受取会費	210,000円
受取助成金等(日本防災士会)	169,200円
事業収益(活動謝礼金)	400,000円
その他収益(受取利息など)	5円
☆ I 前期繰越金 + II 経常収益	1,557,250円
III 経常費用	779,205円
事業費	525,000円
普及啓発活動費(講習会用資料等)	425,000円
その他経費	未計上
会員技術研修費(外部講師謝礼)	100,000円
管理費	209,110円
会議費(リモート会議Zoom使用料)	22,110円
総会費(総会会場借用料等)	6,000円
広報活動費	3,000円
旅費交通費(出張旅費)	10,000円
通信運搬費(総会などの資料郵送代等)	30,000円
印刷製本費(総会資料印刷費)	6,000円
消耗品費(総会開催事務消耗品等)	20,000円
固定資産購入費	0円
備品購入費(講習会、防災訓練等)	100,000円
支払手数料(銀行振込手数料)	12,000円
雑費	未計上
予備費	45,095円
IV 次期繰越金	778,045円
次期繰越金	778,045円
☆ III 経常費用 + IV 次期繰越金	1,557,250円